

# 宮城県石巻西高等学校 第1学年 学習指導案

指導日時:令和3年11月9日(火)第4校時

指導学級 :第1学年1組(男子18名, 女子22名)

指導者:宮城県石巻西高等学校 主幹教諭 関口 聡

## 1 単元名 [コミュニケーション英語 I]Lesson6 A Story about Instant Noodles (東京書籍「Power On」)

### 2 単元の目標

- ペアワークやグループワークにおいて積極的に発言しようとしている。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 自分の考えをまとめ、ペアやグループでの話し合いにおいて相手が理解できているか確認しながら適切な発言ができる。  
【外国語表現の能力】
- 知覚動詞, 使役動詞, 助動詞を伴う受動態を用いた表現を理解できる。  
【言語や文化についての知識・理解】

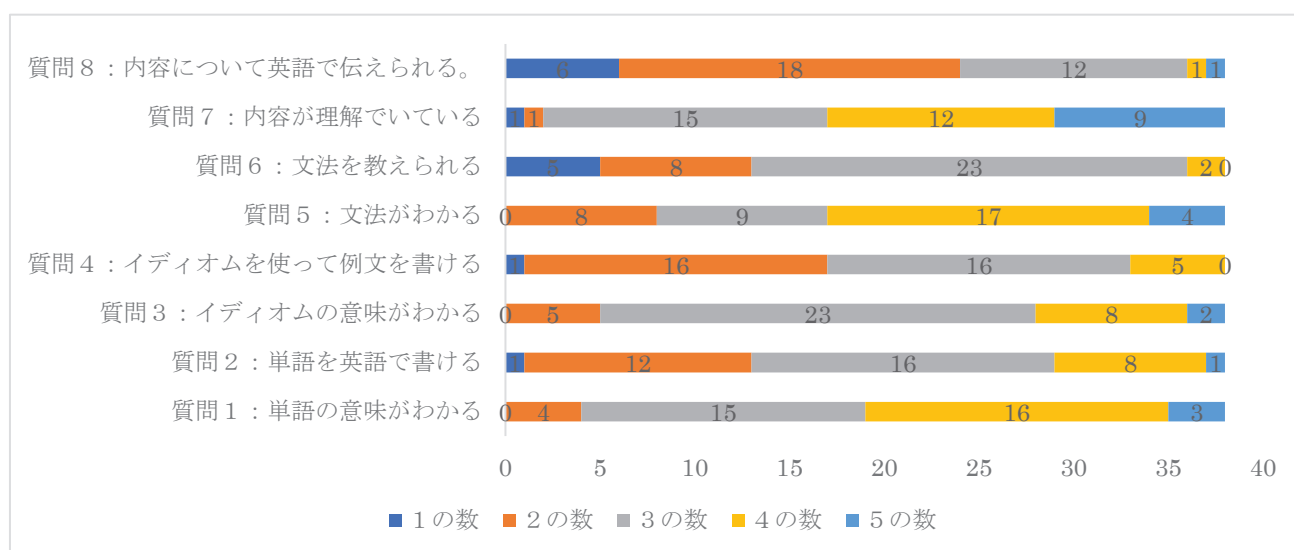
### 3 指導に当たって

#### (1)単元について

インスタントラーメンやカップラーメンが開発された経緯を読み取るとともに、世界で消費されているインスタントラーメンの現状を知る。開発の中心人物である安藤百福さんの経験を通して彼の価値観や使命感などを感じながら第5文型による知覚動詞と使役動詞の語法と助動詞を伴う受動態の表現を理解する。

#### (2)生徒の実態

発音や音読の指導がコロナ禍により不十分だったが比較的積極的に声を出す生徒が多い。ペアワークやグループワークでは間違いや失敗を恐れず英語を使って表現する雰囲気ができている。語彙力に関しては意味を知っていてもそれを使って書いて表現するまで自信のある生徒が少ない。前単元の振り返りでも内容理解はできても書いて表現することに対する自信のなさがかえり(下図参照)。また、本文の理解は授業を通して理解できるようであるがその内容を自分の身近な問題として考えたり、クリティカルな視点で捉えたりすることが苦手である。辞書や参考書の使い方を指導してきたので自分なりの勉強法を確立してほしいところであるが自宅で学習を積極的にして授業に臨んでいる生徒は上位層の生徒のみである。



※5段階(1が最低で5が最高)の自己評価で数字は人数。

#### (3)指導について

これまで品詞の働きや文型の基本的な内容にふれながら英文の構造がわかるように英文の解説をしてきた。自動詞や他動

詞の違いといった基本的な動詞の分類から本文の内容把握に至るまであらゆる疑問点をお互いに共有し、ペアやグループで問い合う機会を多く与えてきたため学び合う姿勢が十分できている。活発な意見交換ができるように間違いの許容や相手を避けないなどのグランドルールを設定し、学びの土壌を築いてきた。分かったフリをせずに分からないところは分からないと発言できる雰囲気を大切にしている。

#### 4 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
自分なりの考えを大事にしながらも、他者の意見を受け入れようとしている。	ペアワークにおける会話において聞き手の反応を見ながら、その場に応じて適切な応答ができる。	文の構造や表現の意味、場面の状況などを考えながら英文の内容を正しく理解できる。	知覚動詞、使役動詞、助動詞を伴う受動態を理解できる。

#### 5 単元の指導および評価計画(全7時間)

学習項目	時数(本時)	主なねらいに対する 主な学習活動	評価の観点				学習活動における主な具体的評価規準 (評価方法)
			関	表	理	知	
Lesson6 The Story about Instant Noodles	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Part1 の内容について大まかにまとめる。</div> 音声を聞きその大まかな内容についてまとめる。			●		単語や慣用句について、よく整理し、適切に表現している。 (ノート, 机間指導, 観察)
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">知覚動詞の語法について理解する</div> 理解が不十分な箇所についてお互いに学び合う。		●		●	ペアワークによる会話を通して知覚動詞の語法ができているか確認する。 (板書による問題解説, 観察)
	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Part2 の内容について大まかにまとめる。</div> 音声を聞きその大まかな内容についてまとめる。			●		ペアワークで新出単語の定着度をお互いに確認する。 (ノート, 机間指導, 観察)
	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">助動詞を伴う受動態を理解する</div> 写真や画像を見てその様子を適切に表現する。		●		●	ペアワークによる会話を通してパターンを何度も練習することで語法ができているか確認する。 (机間指導, 観察)
	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Part3 の内容について大まかにまとめる</div> 音声を聞きその大ま			●		単語の意味を把握した後に聞いた英文を

6	かな内容についてまとめる。					パートナーに伝える活動を通して大まかな理解を促す。 (ノート, 机間指導と質問)
	使役動詞の語法について理解する					
	解説動画を視聴し, 学び合いの機会を与える。				●	教科書掲載の文法問題に取り組む (板書での解説)
7 (本時)	物語全体の趣旨を理解し, その内容について自分の考えを伝える。	●	●			自分が見たことについて, 適切な表現を用いて, 書いたり話したりすることができる。 他者の意見を尊重しながら自分の意見について振り返り視野を広げる。 (ワークシートへの記入)

## 6 本時の指導

(1) 題材名 「Lesson6 The Story about Instant Noodles」

(2) 本時の中心的な活動とねらい

- ・ ペアワークやグループワークにより他者の考えや表現を参考にする活動を通してじぶんの考えを適切に表現ができるようにする。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿	Cへの具体的な手立て
コミュニケーションに対する関心・意欲・態度	本文の内容を理解したうえで思ったことや考えたことを具体的に述べる。	安藤百福さんの活躍を紹介しながら SDGsの観点で感想や意見を述べ, 質問などに対しても適切に応答することができる。	モデルとなる例文を提示し, 単語を入れ替えて英文を成立させるなど援助を行う。

(4) 学習指導上の工夫(主に本時のねらいに対して)

- ・ 学習上のつまづきを指摘するのではなく共通の課題として扱い, 失敗することや分からないことに対するネガティブな感覚を排除する。また, ペアワークやグループワークではグランドルールを設定し, 安心して自分お考えを述べられる雰囲気確保する。
- ・ 言語活動では難易度に幅を設け, 既習事項が身につけていることに実感と自信をもたせる。
- ・ 自分との違いを認め, 他者の多様な価値観や考えを共有する機会を与え, 共感力や合意形成力を養う。

(5) 準備物

教科書, iPad, プロジェクター, スピーカー, ワークシート

(6)本時の展開

段階	学習活動と主な発問 (●予想される生徒の反応)	形態	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
導入 5分	1 Greeting  2 Warming UP	A  P	  既習事項の確認となうような内容にする。	  【関・意・態】 (机間指導)
展開 40分	3 既習事項定着のための活動 ・本文の内容を英語で表現する。  4まとめの活動 ・本文で印象に残った英文などについてやりとりする。  ・安藤百福さんの活動を SDGsの観点から振り返り, 共有する。  ・上記の内容をまとめて本文の感想を英語で表現する。	P  P  G  G	難易度に幅を設け, 提示された写真や画像を元にその場面を表現する。  理由については簡単な例を紹介するなどして支援する。  ワークシートをグループで共有し, お互いの意見の違いを尊重するよう促し, 他者の意見を取り入れることを勧める。(記入する際に色を変えさせる。)	【知・理】 (机間指導, 観察)  【関・意・態】 (机間指導, 観察)  【関・意・態】 (ワークシートへの記入)  【能】 (ワークシートへの記入)
まとめ 5分	7 本時の振り返り	A	自己の学びや気づきを振り返ることができるようにする。	【関・意・態】 (ワークシートへの記入)

※形態:A(一斉), P(ペア), G(グループ)

(7)学習プリント・ワークシート(別添)

## Lesson6 The Story about Instant Noodles and SDGs

- ・ L6の内容はそれぞれのSDGsの達成とどれくらい関連があると思うか☆を塗りつぶしてみましょう。
- ・ ★★★にはそのように判断した理由を簡単に書きましょう

とても関連がある…★★★ 関連がある…★★☆ 少しだけ関連する…★☆☆ 関係がない…☆☆☆

[☆☆☆] Goal 1: No Poverty ( 貧困をなくそう )

理由 :

[☆☆☆] Goal 2: Zero Hunger ( 飢餓をゼロに )

理由 :

[☆☆☆] Goal 3: Good Health and Well-Being for people ( すべての人に保健と福祉を )

理由 :

[☆☆☆] Goal 4: Quality Education ( 質の高い教育をみんなに )

理由 :

[☆☆☆] Goal 5: Gender Equality ( ジェンダー平等を実現しよう )

理由 :

[☆☆☆] Goal 6: Clean Water and Sanitation ( 安全な水とトイレを世界中に )

理由 :

[☆☆☆] Goal 7: Affordable and Clean Energy ( エネルギーをみんなに, そしてクリーンに )

理由 :

[☆☆☆] Goal 8: Decent Work and Economic Growth ( 働きがいも経済成長も )

理由 :

[☆☆☆] Goal 9: Industry, Innovation and Infrastructure ( 産業と技術革新の基盤をつくろう )

理由 :

[☆☆☆] Goal 10: Reduced Inequalities ( 人や国の不平等をなくそう )

理由 :

[☆☆☆] Goal 11: Sustainable Cities and Communities ( 住み続けられるまちづくりを )

理由 :

[☆☆☆] Goal 12: Responsible Consumption and Production ( つくる責任つかう責任 )

理由 :

[☆☆☆] Goal 13: Climate Action ( 気候変動に具体的な対策を )

理由 :

[☆☆☆] Goal 14: Life Below Water ( 海の豊かさを守ろう )

理由 :

[☆☆☆] Goal 15: Life on Land ( 陸の豊かさを守ろう )

理由 :

[☆☆☆] Goal 16: Peace, Justice and Strong Institutions ( 平和と公正をすべての人に )

理由 :

[☆☆☆] Goal 17: Partnerships for the Goals ( パートナーシップで目標を達成しよう )

理由 :

